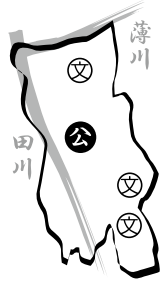


館報

庄内



庄内地区
平成27年3月1日現在人口
世帯数 6,678戸
男 7,432人
女 7,423人
合計 14,855人
発行 庄内地区公民館 (ゆめひろば庄内)
電話 24-1811
FAX 24-1812

三九郎のちと昔

—伝統行事の保存とは—

松本地方では、どんどこやきを「三九郎」と呼んで古くから正月の子どもの行事として受け継がれてきました。

昭和四十年頃までは、小学生の行事として、芯木の調達から、藁あつめ、松集めなど大人の手を借りずに実施していた所が多かったのではないのでしょうか。

一月十四日か十五日に燃やす(焚き上げる)のがほとんどの地域で行われていたと思います。

しかし最近では、少子化が進み、また成人の日が変わったり、冬休みが少なくなったり、さまざまな理由で、様相が変わってきています。

そんな姿を、かつて子ども中心で三九郎を実施してきた大人たちはどう感じているのか庄内地区の大人に聞いてみました。

・昔は各町会であちこち作っ

ていたが、今は場所がなくなってしまった。

・官庁への届け出や消防団へのお願いな事務手続きがある。

・昔は道祖神とセットで三九郎を行っていた。

・一月に入れば骨組みを作っ



神田町会の三九郎

ていた。

など、昔を懐かしむ声も多い

一方、

・松飾を三九郎に出さないでゴミステーションに出す人がいる。

など世相の移り変わりのなかで、とにかく続けてもらえるだけありがたい。

という声も聞かれます。

三九郎の作り方を知らない大人も増えています。転入などで庄内地区の住人になられ

た人を含めて、三九郎の芯木の組み方、縄の縛り方などを教え、伝えていくために、庄内地区子ども会育成会では、毎年冬休み前に、小学生を対象とした講習会を開催しており、大勢の小学生が参加しています。

こういう機会を通じて、子ども達が関心を持ち、続いていくことは大切なことだと思います。

また、青山様やぼんぼんなども八月十日ころを中心に各町会などを練り歩いています。したが、八月上旬に数日間で終わらせてしまうところもあるようです。

とにかく少子化(町会によつては小学生が三人くらいしかない)、子ども達の生活スタイルが変わってきている、など時代の変遷や、社会情勢の変化などでこういう伝統行事の存続が全国各地で問題になっています。

背景には、大人と子どもの生活の断絶や、地域の絆が薄れてきていることも影響しているかもしれません。

伝統行事が地域を結びつけてきた側面も考えながら、これから先どうやって地域に伝わる伝統行事を保存し、伝えていくのか、皆で知恵を出し合っていきませんか。



この冬は寒くなるよ、山に住んでいる知人が真顔で告げてくれました。九月の初旬のことです。冬まで十分間があるのに動物的感觉で冬の到来を察知したのか半信半疑で聞いていました。今になって思いだし周囲を調べてみるとクリタケが例年より一月早く顔を出したと、紫シメジとリコボウが一つも採れなかったこと、花は咲いたがブルーベリーの実に実が付かなかったこと等々不思議なことがあります。でも、ニンニクは早く植えたため大きく成長してしまいました。新潟県境に住んでいる友人の便りによると降雪が例年の三倍もあり雪かきに苦労していると悲鳴を上げておりました。

便利な暮らしに慣れてしまふと自然の変化を見逃してしまいがちです。機会あるごとに自然に接し、持っている感覚を養っていかうと思えました。六十代の私達でも鈍くなっているのに、孫の世代はもつと外遊びが少なく、体や感覚が劣っていると思います。事あるごとに外に連れ出して災害の予兆などに敏感な子に少しでも近づけたいものです。(K)

# 自然災害に備えて 避難所運営ゲーム

## 「HUG」取り組みの経過

庄内地区では今年度、地域づくりの推進主体「庄内地区まちづくり協議会」を立ち上げ、「防災」と「ボランティア」の二つのテーマについて取り組みを始めています。今回の防災研修会は、協議会の庄内地区町会連合会と庄内地区防災・防犯協会の主催で、長野県の県政出前講座「HUG(避難所運営ゲーム)」を活用しました。

「HUG」とは、避難所運営を皆で考えるための一つのアプリとしまして、静岡県で開発されたものです。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情の書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置ができるか、また避難所でおこなう様々な出来事に対してどう対応していくかを模擬体験するゲームです。この「HUG」を



活用した研修は、昨年十一月に三地区(第二、第三、庄内地区)合同防災部長研修で実施し大変好評であったため、今回避難所開設時に運営の中心となる町会役員と民生児童委員を対象に計画しました。なお、今回の研修には、学校等施設管理者、避難所担当職員(市職員)にも参加いただきました。新年度も参加対象を代えて多くの人から参加を

いただく予定です。

地震や水害など実際に災害が起き、家屋が損傷した場合には、避難所での一時生活が必要となります。その時どうすれば少しでも避難所生活が快適に過ごせるかを考えるものが、今紹介した避難所運営ゲームです。

それぞれの避難者に対し、どうすればよいか考えてみませんか。研修の一端を紹介いたします。

**事例一** Aさん 世帯主三十歳 妻二八歳 長女五歳

・体育館へ行くように指示されたが好きな場所を自由に使ってもいいですか？

**事例二** Bさん 世帯主三九歳 妻三七歳 長男九歳

・大型犬のレトリバーを連れて避難してきました。犬はどうすればよいですか？

**事例三** Cさん 世帯主五十歳 妻四十歳 長男十歳

・テントを持参したので校庭に張りたいがどこに張ればいいか。

**事例四** Dさん 世帯主六六歳 父九九歳 母九二歳

・要援護支援者に手伝ってもらい避難してきました。父は車いすを使っています。避難所のどこに行けばいいでしょうか。

**事例五** Eさん 世帯主三十歳 妻二八歳 長男五歳 長女一歳

・子ども用のオムツ何とかなりませんか。授乳できる場所はどこかにありますか。

正解はありません。避難所には、様々な年代、職業を持った家族が入ってきます。お互いに理解や思いやり、弱者への配慮などが必要です。研修を通じて今まで考えたこともなかった事態を考えてみる事ができます。

機会があれば、ぜひ参加していただきたいと思えます。

**参考 解決例**

**事例一** 避難所の運営委員会の指示に従いますが、若い家族なので、奥の方へ入るのはどうか。

**事例二** 大型犬は避難所内へは入れないので、屋外に適地を見つけてペットの居住区を指定する。

**事例三** 物資の搬入やけが人の移送などの邪魔にならない所を指定する。

**事例四** 高齢者であり、車いす使用を考えれば、トイレに近いところ、看護師など医療関係者の近くなど。

**事例五** 子どもの泣き声への配慮や授乳は隔離した場所が必要。

## 第23回 弘法山古墳桜まつり

4月5日(日)～25日(土)

- ・光の回廊
- ・弘法山さくら音楽祭 12日10時30分
- ・桜絵画コンクール
- ・桜写真コンクール
- ・並柳まるごとミュージアム



## 入学おめでとう

- ◆筑摩小学校 83人
  - ◆並柳小学校 68人
  - ◆源池小学校 8人
- (庄内地区関係分)

## 卒業おめでとう

- ◆開成中学校 110人

